



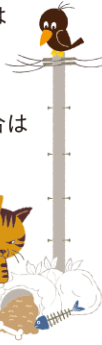
消化器の病気

CASE 08

- 吐く
- よだれが多い

いぶつせっしゅ 異物摂取

猫は警戒心が強いので、犬よりは異物を飲み込みづらいとされています。しかし、特に若いオス猫では、しばしば異物による胃腸障害が認められます。おもちゃで遊んでいるうちに勢い余って、というケースが多いようです。胃の中に固形の異物があると吐き気が認められ、よだれが増えることがあります。食道や小腸で異物が詰まると、より重篤になります。また、異物の中でも特に注意が必要なのがひもです。猫は一般的にひもが好きで、よく遊びます。このひもを飲み込むと、ひもの一端は口の中や胃の中で引っかかり、もう一端はどんどん先へと送り出されていきます。結果としてひもを中心に腸が手繰られたような形となり、ひどい場合にはひもによって腸が裂けることがあります。腸内には大量の細菌が存在するため、重篤な細菌性腹膜炎を発症し、命に関わります。ひもで遊んでいたあと急に食べなくなり、嘔吐が続くなどの場合は緊急処置が必要です。



CASE 09

- 吐く

もうきゅうしょう 毛球症

猫はきれいな好きな動物で、よく毛づくろいをします。また、なにがストレスがあると気持ちを落ち着けるために毛づくろいをすることもあります。毛づくろいをする、その都度少しずつ毛を飲み込んでしまいます。これがたくさんたまってくると吐き気を催すようになり、空えづきを繰り返したり、猫草を食べたがったりします。吐いた際にフェルト状に固まった毛が出てくることもあり、出しまえば楽になるようです。毛づくろいそのものは止められないため、こまめにブラッシングし、飲み込む毛の量を減らしてあげることが重要です。



CASE 10

- 下痢
- 吐く

しょうかかんせいせいちゅう 消化管寄生虫

一般的に認められる寄生虫としては、猫回虫、猫鉤虫、瓜実条虫、コクシジウム症などがあります。いずれも、成猫ではほとんど症状を出しませんが、子猫では嘔吐や下痢が認められることがあります。猫回虫では、嘔吐した際に虫体を吐き出すことがあります。また、瓜実条虫ではゴマ粒大の変節が肛門周囲に付着していることがあります。特に野良猫を保護した場合には、しばしば消化管寄生虫が認められます。そのため、保護直後は症状がなくても一度は糞便検査を受けることが勧められます。



CASE 11

- 吐く

便秘

猫はあまり水を飲まないため、便秘しやすいと言われています。そのほか、トイレが汚いなどの理由で排便をしなくなり、便秘が悪化することがあります。便秘すると便が出ないほか、繰り返しいきんだ際に嘔吐が認められることがあります。程度がひどい場合には浣腸が必要になります。



猫トイレはまめなお掃除を心がけたい



(札幌市)NPO法人
ニャン友ねっとわーく北海道
代表 勝田 珠美

北海道の保護団体からひとこと①

私たちニャン友ねっとわーく北海道は動物の環境と福祉の整備を図るとともに、動物愛護精神の啓発に関する事業を行うことにより、人々が動物の生命の尊厳を守り、人と動物が共生することのできる思いやりのある社会の実現に寄与することを目的とし活動しています。

保護猫のケアにおいてはしっかりと知識を獣医師の先生から学び、飼い主に繋ぐその日まで愛情をもってのお世話を心がけています。



小樽で保護されたボセイドン(長毛)・ロボロス(短毛)